

## 災害復興新生研究機構シンポジウムにおいてキャンパスツアーを実施し、特別企画展示を行いました（2016/3/8）

テーマ：東日本大震災・研究成果の発信

場所：東北大学災害科学国際研究所・東北大学川内萩ホール

東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム「共に未来へ～東日本大震災から5年～」(東日本大震災から5年を迎えるに際し、これまでの取組を社会に向けて発信することが目的)の一環として、キャンパスツアーを実施しました。行政、大学、民間企業などから16名の方にご参加頂き、当研究所の取り組みや研究成果、および所有設備などについて紹介しました。まず、奥村誠副所長より歓迎の挨拶があり、続いて、村尾修教授(所長補佐)より当研究所について説明がありました。その後、所内各所にて研究成果や設備を紹介しました。紹介した内容は以下のとおりです。

- ① **多主体ゲーミングシミュレーションシステム**(被災地支援研究分野 奥村誠教授)  
災害に関わる複数の主体が同時に意思決定を行う状況のシミュレーションを実現するシステムです。災害発生時の各組織の行動戦略と情報交換体制の改善策を見出すことができます。
- ② **地域歴史資料の災害対策**(歴史資料保存研究分野 天野真志助教)  
津波や風水害などで被災した歴史資料を地域の文化的遺産として継承する方法論を分析・策定しています。また、日本の実情に相応した大量修復のあり方を検証し、災害発生時に迅速な手当てを実施できるシステムを構築しています。
- ③ **2011年東日本大震災から見えてきたこと**(国際防災戦略研究分野 村尾修教授)  
本研究所の研究者が東日本大震災に焦点を当て、それぞれの専門を活かし、HFA(Hyogo Framework for Action 2005-2015)という枠組みを通して見えてくる教訓をまとめた報告書です。
- ④ **減災「結」プロジェクト**(地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門 保田真理助手)  
東日本大震災の経験や教訓を伝える減災教育プログラム、出前授業や講演会、災害に関する視聴覚教材の開発などを通じて、災害の被害を最小限にするための情報発信を行っています。認知心理学や脳科学などの知見を活かして教材を開発しています。
- ⑤ **地震体験機**(災害情報認知研究分野 邑本俊亮教授)  
装置に乗って地震動を体験することが可能です。脳計測や心理実験を組み合わせることで、地震を体験している時の脳活動や地震経験が心の働き(記憶・判断・注意など)に及ぼす影響を調べることができます。
- ⑥ **災害科学情報の多次元統合可視化システム**(地域安全工学研究分野 寺田賢二郎教授)  
災害科学の進化、実践的防災学の体系化、および災害に強い社会システムの構築を実現するための3次元可視化システムです。自然災害に関する研究成果やデータを、重層的に3次元可視化する見える化プラットフォームです。
- ⑦ **電気自動車**(災害アーカイブ研究分野 柴山明寛准教授)  
災害発生時における備えの1つとして、電気自動車の活用を検討しています。災害時の調査車両として利用する他、ライフラインが途絶状況下での電源としての利用などについても検討しており、所内の防災訓練では実証実験を実施しています。

また、シンポジウムが開催された東北大学萩ホール2階ホワイエにて、特別企画展示をイケリーン・チョンヨン助教、浩日助助教、石村大輔助教が行ないました。展示パネルの作成は、広報室および展示WGを中心に行い、当研究所各部門の研究成果、最近実施した緊急調査団の国内及び海外での活動を紹介しました。また、モニターを使い、当研究所概要を紹介する広報用動画と360度カメラで撮影された被災地の様子を紹介しました。シンポジウム会場の前で展示を行ったため多くの方々に足を止めていただき、当研究所の活動を紹介することができました。今後の活動への期待の声をいただきました。

文責：村尾修、森口周二(地域・都市再生研究部門)

石村大輔(災害理学研究部門)、鈴木通江(広報室)

写真：小谷拓磨(東北大学工学研究科)、岡田真介(災害理学研究部門)

(次頁へつづく)



災害科学国際研究所の紹介



① 多主体ゲーミング  
シミュレーションシステム



② 地域歴史資料の災害対策



③ 2011年東日本大震災から  
見えてきたこと



④ 減災「結」プロジェクト



⑤ 地震体験機



⑥ 災害科学情報の多次元統合  
可視化システム



⑥ 災害科学情報の多次元統合  
可視化システム



⑦ 電気自動車



参加者による集合写真



萩ホールでの展示の様子



萩ホールでの展示の様子